

学年	高校 2 年	教科	国語	科目	文学国語	単位数	2
教科書名		精選 文学国語（明治書院）		副教材名	一日一講 文学（三省堂）		
コース・クラス		選抜クラス					

I. 目標

- ・文学作品の読解および鑑賞を通じて豊かな感性を育み、古今東西の作品に多くの知見を求め、文学世界を深く味わうことができる能力を養う。
- ・大学入試共通テストに対応できるだけの語彙力と読解力、さらに速読力を獲得する。

II. 授業のねらい

- ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

III. 授業の進め方

- ・自らの力で文章を理解し、説明できる言語能力を養成する。
- ・講義形式・A L・電子黒板・I C Tなど聴覚・視覚に訴えるよう、様々なツールを活用する。
- ・学術論文や難解な文学作品などを素材として、作品批評や作品鑑賞などを行う。
- ・語学的な知識や文学史の習得を目的とした小テストを実施する。
- ・難関大学の入試に対応できるよう、適宜演習授業を行う。
- ・「文芸コンクール」に向けての学習や準備も適宜取り入れる。

IV. 学習上の留意点

- ・各種作品について、必ず下読みを行うことを授業内容の予習として実践すること。
- ・作品を読んで得た感想や印象・疑問点などは友人と共有し、お互いの知見を広げる意欲を持つこと。
- ・配布された資料には必ず自分の力で取り組み、空白などのやり残しのないようにすること。
- ・毎時教科書、ノート、副教材を授業前に準備し、机の上に置いておくこと。
- ・その日の授業内容は家庭で復習すること。

V. 定期試験

- 1 学期 中間試験 : 『小説とは何か』、『山月記』、初見問題、文学史
- 1 学期 期末試験 : 『鞆』、『』、初見問題、文学史
- 2 学期 中間試験 : 『山東京伝』、『陰翳礼讃』初見問題
- 2 学期 期末試験 : 『マンガは哲学する』、『現場に来て初めてわかること』、初見問題
- 3 学期 学年末 : 『野火』、初見問題

VI. 評価の方法

- ・定期試験...授業内容をしっかりと理解し、それを応用することができる。
- ・小テスト...計画的に自学自習を行い、意欲的に小テストに臨むことができる。
- ・提出物...積極的に授業に参加し、課題に対して期限を守り、真摯に取り組むことができる。

VII. 授業計画

学期	月	単元・学習項目	評価方法	到達目標
一学期	4	『小説とは何か』三島由紀夫	定期試験 小テスト 提出物	・小説とはどのようなものかについて文章を元に自ら考え、読解や創作に生かす。 ・変身譚を通じて、近代人の苦悩を理解するとともに、「象徴」を捉えて作品のテーマを読み取る。 ・心理描写やリアリズム以外の表現形式を持つ小説への理解を深め、多様な文体に対応することができる。 ・象徴的な言葉に注意し、詩歌を通じて筆者の思いを理解することができる。 ・詩についての評論文や解説文を通じて、詩の鑑賞法を身に着ける。
	5	『山月記』中島敦		
	6	『鞆』安部公房		
	7	『汚れつちまつた悲しみに』中原中也 『私的リズムー音数率に関するノート』菅谷規矩雄		
二学期	9	『山東京伝』内田百閒	定期試験 小テスト 提出物	・随想的な内容の作品について、筆者が自身の体験から得られた教訓や学びを読み解く。 ・各国特有の伝統的な文化について、背景にある人々の美意識や価値観について理解する。 ・ハイカルチャーと比較しながら、サブカルチャーの持つ価値を認識する。 ・「哲学」という学問についての理解を深める。
	10	『陰翳礼讃』谷崎潤一郎		
	11	『マンガは哲学する』永井均		
	12	『現場に来て初めてわかること』		
三学期	1	『野火』大岡昇平	定期試験 小テスト 提出物	・戦争を題材にした作品を通じて、自身のアイデンティティを客観的に俯瞰しながら、作品との向き合い方について考える。 ・我が国の伝統的な文化である短歌についての価値を、作品を参照しながら自ら考えるとともに、創作活動にも親しむ。
	2	短歌の輪郭ー現代人にとって短歌とは何か		
	3	基礎学力到達度テスト対策演習		

※ シラバスの内容（時間や事項）については、理解度やその他の都合により変更することもあります。